



巻頭言

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院
院長・理事長 大西英之

2017年はクリニックの開設や回復期病床の増床などあわただしく過ぎてしまいましたが、今年はハード面での新たな計画はありませんので、将来に向けてじっくり考える年にした
いと思っております。

目標として「スマートな医療」を掲げました。スマートな医療とは、医療の質の向上、病院経営の改善、職員の卒後教育を3つの柱としています。

医療の質の向上はどこでも言われていると思いますが、医療の安全、常に低侵襲な高度医療を目指して、負け組と勝ち組の病院が出てきています。ますます患者さんは集中してい
く傾向にあるので、勝ち組に入っていかななくてはなりません。そのためには、低侵襲な医療を常に新しく開拓していかななくてはなりません。当院で新しい方法を開発していくのだと
いうくらいの気持ちでやって欲しいと思っています。

病院経営の改善に関しては、高齢化社会になると医療費が上がってくることはどうしても避けることができません。その中で医療経済を無視することはできませんから、何をした
らいいのかわからない。無駄のない医療を心掛けるということだと考えています。例えばある高齢の患者さんのお薬手帳を見てみますと、内科で数種類の薬、整形外科で腰痛に貼り薬の他数種
類、脳卒中で抗血栓薬などをもらい、頻尿なので泌尿器科で薬をもらい、眠れないので睡眠導入剤をもらっている。合計20種類近くの薬をもらっている人も珍しくありません。きち
んと指示通りに、忘れずに服薬できているのでしょうか。無駄のない効率的な医療を考えていかななくてはならないと思います。当たり前のことですが、エビデンスに基づいた医療は、
医療経営の面からも言えると思います。医療廃棄物の問題も大きいです。最近では瓶の点滴などはなくなりましたが、医療に使用したものを廃棄するにはかなりの費用がかかります。
小さな金額でも年間になると大きな、1,400万円という数字です。光熱費や事務用品、コピー代などもバカになりません。無駄を省くことは利益率が10%とすると、その10倍の売り
上げと同じという事になるわけですから。ささやかなことですが、病院全体で意識を持つことが重要だと思っています。

卒後教育研修制度に関しては、ドクターが学会に参加するといったことだけでなく、看護師さんには各部門専門の認定看護師
などがありますし、薬剤師さんもそうです。放射線技師や臨床検査技師、事務職員にも様々な資格があります。各職場で資格を
整理していただき、職場ごとの資格獲得の目標設定をしていただきたいと思います。病院は非常に人の手間のかかる職場です。
人がしっかりしていなくては、いい医療は行えません。外部講師による研修、職員による相互研修、など積極的な学びの機会を
増やそうと思っています。また幹部職員を集めて、一泊二日で研修会を行ったり、マンツーマンのコーチングも受けてもらって
いますが、職員の満足度を上げ、わくわくする希望に満ちた職場を作り、次の5年間に備えたいと思っています。



【外部講師による新入職員研修】